

第1回日越友好高齢者介護セミナーの開催を記念して

大阪健康福祉短期大学長 秋葉 英則

本学は、2005年12月、ベトナム社会主義共和国ホーチミン市立幼児師範学校と学術交流協定を結びました。そこにいたる道のりは、わが国の障害児・者を守る運動（発達保障の具体化）の深く尊いヒューマンズムに根ざした実践のつながりの中で実現したといえましょう。その中心的役割を果たされたのは本学教授藤本文朗先生とその研究の仲間たちです。

おもえば、人間愛に満ちたヒューマンな研究運動は、更なる発展と広がりを目指し追いつめるものです。その証しこそ今次のセミナー開催といえましょう。

本学学長としてうれしく思います。

ここに至るまでのベトナムの関係者の方々、そして本学の関係者の方々のご努力に敬意を表します。

こうした関係者の方々のご努力がさらに大きく発展し、人々の営みの未来に“幸福”をもたらすことを確信して学長として以下のような思いにこだわり続けたいと考えています。

① 常に歴史に学ぶこと

そのためには、その時々、その事業の展開に当って、立ち止まって、歴史の教訓を生かしているかどうか、問うことが求められます。

② 誠実に、その時々、その事業を具体化すること

本学の持ち合わせている力量をベトナムの人々の知恵に学び、ともに育ちあう力に転換したいとおもいます。

③ “継続は力なり”の教訓に学ぶこと

いうまでもないことだが、意味づけした事柄については、定期的に確認し、求められることについて実践し続けることが大切なのです。

私事ですが、私はいまだベトナム社会主義共和国の大地を踏んでおりません。いつの日か“ベトナム戦争反対”と叫んだわが青春時代の胸の内に思いをはせて訪ねてみたいとおもいます。そのとき、今次の取り組みの成果を確かめたいとおもいます。